

## 自己愛性パーソナリティ障害の診断基準

誇大性（空想または行動における）、賞賛されたいという欲求、共感の欠如の広範な様式で、成人期早期までに始まり、種々の状況で明らかになる。以下のうち5つ（又はそれ以上）によって示される。

|                                                                        | チェック |
|------------------------------------------------------------------------|------|
| (1) 自己の重要性に関する誇大な感覚（例；業績や才能を誇張する、十分な業績がないにもかかわらず優れていると認められることを期待する。    |      |
| (2) 限りない成功、権力、才気、美しさ、或いは理想的な愛の空想にとらわれている。                              |      |
| (3) 自分が“特別”であり、独特であり、他の特別又は地位の高い人たちに（又は団体で）しか理解されない、又は関係があるべきだ、と信じている。 |      |
| (4) 過剰な賞賛を求める。                                                         |      |
| (5) 特権主義、つまり、特別有利な取り計らい、又は自分の期待に自動的に従うことを理由なく期待する。                     |      |
| (6) 対人関係で相手を不当に利用する。つまり、自分自身の目的を達成するために他人を利用する。                        |      |
| (7) 共感の欠如；他人の気持ち及び欲求を認識しようとししない、又はそれに気付こうとししない。                        |      |
| (8) しばしば他人に嫉妬する、又は他人が自分に嫉妬していると思い込む。                                   |      |
| (9) 尊大で傲慢な行動、または態度                                                     |      |

※本文は、「DSM-IV-TR 分類と診断の手引き」（医学書院）を参照しています。